

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	長岡技術科学大学	整理番号	1808
プログラム名称	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム		
プログラム責任者	和田 安弘	プログラムコーディネーター	梅田 実

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

〔コメント〕

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、メンター制度や外国人研究者や企業社員などの協力によって丁寧に実施されたカリキュラムに加えて、国際共同大学院、共同工場型キャンパス、イノベティブキャンパスなどのユニークな仕掛けが効果的に作用する「超実践教育」が仕組みとして機能している。企業との連携により、地域のニーズに応えたルートテクノロジー開発や研究が大いに進展し社会実装された点は、卓越大学院の精神を実現したものとして評価できる。

修了者の成長については、2度の反復実習によって失敗や挫折を経験し、それを克服するプログラムを通じてルートテクノロジーを身につけた学生は非常に高い実践力を有しており、社会に出後に成長・発展するポテンシャルを十分持っている。実際、地元企業だけでなく、県外の企業や行政などとの多様な連携・協力が進む中、高度な知のプロフェッショナルとして修了生がさらに力を発揮する機会を得ている。多くの修了者は、他の卓越大学院プログラム生との交流会に参加していて、大学を超えた交流を継続しており、修了者の成長の場作りにも様々な工夫が見られる。

キャリアパスの構築については、もともと本大学の博士課程修了者がほぼ100%企業に就職していたという背景もあり、本プログラム修了生についても60%以上が企業への就職を果たしている一方で、アカデミアや国立研究機関等への就職といった多様なキャリアパスを実現できている。特に大学発のベンチャーにおいては起業数が全国2位になるなど、高度な知のプロフェッショナルが実践の場で力を発揮し、キャリアパスを形成していることは、注目に値する。本プログラムの卒業生による会が設立されることによって、修了者の交流や活躍状況に関する情報共有がなされていることも評価できる。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、「研究倫理」、「機械工学情報特論」、「ソーシャルイノベーション特論」などの実践教育、倫理、情報、総合知、社会変革に関する科目が全専攻に展開され、卓越大学院プログラムの教育の基本概念が大学院全体に及んでいる。更に、本プログラムの取組が学部のカリキュラム改革まで波及しており、メジャーマイナーを取得できる「技術革新フロンティアコース」が学部を設置され、高専卒業生が多いことも踏まえ、複眼的かつ俯瞰的な視野を持つ学生の教育が目指されている。大学院のグッドプラクティスを学部カリキュラム全体まで展開する取組によって、新たな改革の形を実現できていることは評価できる。さらに、技学SDGsに関する様々な国際認証を獲得するとともに、十分な外部資金を獲得できていることから、補助期間終了後の継続・発展にも期待が持てる。